

## 遠く、温かい思い出

校長 武井 正明

私の身近なところで、このほど元気な女の子が誕生した。母子ともに健康。無事生まれてきてくれて、本当によかった。おめでとうございます。

ふと、自分の娘が生まれた29年前のことを思い出した。

春休み中の夜9時2分、彼女は産声を上げた。身長は50cm、体重2604g。この、今日の前にいる赤ちゃんが自分の子ども…。本当なのだろうか、実際に産んでいないので実感はなかった。しかし、勧められて抱っこすると、落としやしないかと怖くなった。その時だ。この小さな命。これを俺は何があっても守っていかねばならないのだ、と大きな責任がずっしり肩に掛かった記憶がある。

これまでいなかったメンバーが突然家族に加わる。生活は激変した。

いきなり、生まれたての大スターが華々しくデビュー。我が家に登場するのだ。

妻の実家生活を経て、娘が巻のアパートに来た時は、それまで独身気分で気楽に過ごしていた私は、これからどういう生活が待っているのだろうかと不安しかなかった。

そして娘は来た。その瞬間から、生活の総てが娘を中心に回った。私たち夫婦の注目の的。赤ちゃんというのはすごいパワーだ。周りの人を総て笑顔にってしまう。

幸い私は、夜泣きは苦にならなかった。妻が起きられない時は、私が哺乳瓶でミルクを作って飲ませていた。それが間に合わないと、娘はよく勘違いして、私の腕の力こぶを、おっぱいだと思って吸い付いてきた。これが楽しくて可愛くて嬉しくて、実は妻に隠れて再三やっていた。こんなに小さいのに生きるために必死。この生命力に感動した。見ていて飽きなかった。

お風呂は私の仕事。お湯につけて頭や頬を撫でてやると気持ちよさそうに、目を閉じてうっとりする。これは美人になるぞ。

お湯に浸かっていると、ブルブルっ!! えっ?おまえ、ひょっとして…と視線を向けると、こういうのはわかるのかなあ、ニヤッと返す。これも楽しい思い出。

これが月日を経て、だんだんシャンプーハットで頭を洗うようになり、アンパンマンキャラクタークイズで、お互いに茹蛸のようになるまで、風呂に浸かってクイズ合戦。

毎日忙しく、狭いアパートだったけれど、そこには幸せがいっぱい詰まっていた…。

吉中の皆さんひとりひとりも、みんな、そんな幸せを神様から貰って生まれてきたのです。だから生まれてきてくれただけで親孝行。泣いて笑って、心豊かな人生を皆さんに送ってもらいたい。皆は親御さんの大事な宝物なのだから。